

# 令和4年度指定管理業務に関する事業報告書（老人福祉センター）

センター名 京都市淀老人福祉センター

## 1 施設の管理運営

<p>【開所日及び開所時間等】 月曜日～土曜日 午前9時から午後5時</p> <p>【閉所日】 日曜日、祝日、振替休日、12月29日～1月3日</p> <p>【管理業務】 (1)窓口業務（新規利用者に対する利用案内、事業紹介、各種事業の受付等） (2)施設の維持管理（館内清掃、開館・閉館業務、遺失物・拾得物の管理） (3)消防設備定期点検 (4)開所・閉所時の安全点検</p> <p>【サービス向上のための取組】 (1)職員の資質向上のための研修 (2)老人福祉センター利用案内（淀老人福祉センターだより）の作成 (3)施設・備品の団体利用についての規則を明確化 (4)苦情解決体制の整備と苦情事例の活用 (5)安全確保のための事故報告書等の事例共有</p> <p>(参考) 今後実施予定の指定管理者提案内容 京都市とも連携をはかりながら、施設の維持管理および計画的修繕をめざす。</p>
---

## 2 事業実施内容

<p>(1) 教養教室事業 健康づくりや老化の防止と技能や趣味の向上を目的に10教室で開始予定であったが、新型コロナ感染防止のため、カラオケ教室・詩吟教室・民謡教室・小唄教室の4教室は7月まで活動停止となり、8月～9月に活動を再開した。</p> <p>(2) 高齢者自主活動支援事業 高齢者がグループで自主的に取り組み、その活動が円滑に進められるように支援してきた。 年度末 18同好会（ただし、2つの同好会が7月まで活動を停止していた。）</p> <p>(3) 介護予防事業 伏見地域介護予防推進センターと連携し、ファイン体操教室（月1～2回）・栄養教室（年3回）・口腔機能教室（年3回）を支援・実施した。</p> <p>(4) 自由参加事業 ①ぬり絵サロン 誰でも気軽に参加でき、閉じこもりがちな高齢者が仲間をつくる場所として、月1回実施した。 ②ネットトラブル防止対策講座 ワンクリック詐欺などを疑似体験していただき、その対処法を学んでもらうネットトラブル対策講座を警察との連携で実施した。</p> <p>(5) 世代間交流 令和4年度も新型コロナの影響で実施できなかった。</p> <p>(6) 地域福祉団体への支援・連携 老人クラブ連合会、民生児童委員協議会、老人福祉懇談会などの会議や事業の活動場所として、部屋を提供した。</p>
---

## 3 サービス提供状況

<p>施設管理兼事業担当者 所長1名 嘱託1名 アルバイト3名（職員休暇時等に依頼）</p>
--

## 4 市内中小企業への発注に対する考え方

<p>特殊設備等の保守管理以外は市内中小企業を活用し、見積もり合わせを行い発注する。</p>
--

## 5 施設の利用状況(施設の稼働率, 利用者数, 事業参加者数など)

### (1) 施設利用者数(延べ人数)

7,538 人

### (2) 施設稼働率

100.0 % (開所日数: 294日)

### (3) 収支実績

#### ア 令和4年度収入状況(単位:円)

委託料	8,650,660
その他	47,143
収入計	8,697,803

#### イ 令和4年度支出状況(単位:円)

人件費	6,135,818
事業費	1,830,046
委託費	228,450
小額修繕費	126,610
その他	0
支出計	8,320,924

## 6 施設の利用者満足度の把握

### (1) 利用者満足度の把握状況

令和4年度は満足度調査を実施していないが、講師や世話人から適宜意見を聞き取った。

### (2) 利用者満足度把握の結果

不満や回答を求める意見等は無かった。

### (3) 意見等への主な対応状況

新型コロナウイルス感染拡大前に実施していた発表会開催の希望意見が多かったが、舞台発表は密集・密接になるため、講師や世話人の理解を求め実施しなかった。作品展については、感染拡大防止対策を取りながら3月に実施し、好評であった。

## 7 評価(指定管理者自己評価)

高齢者の方々が健康や老化の防止だけでなく、住み慣れた地域で仲間づくりや社会参加のきっかけづくりの身近な施設になるように、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を取りながら利用者の期待に応えられるよう取り組み運営してきた。

施設利用者数は、令和2年度4,503名、令和3年度4,182名であったが、令和4年度には7,540名と回復してきた。8月からの再開後に参加者が減少していた教室・同好会については、広報紙などを活用して参加者を募集し、増員活動を行った。

運動系の教室・同好会は参加希望者が多く待機者がいることから、利用者のニーズに応えられるよう講師の方々と開催回数を増やすことなどを相談していたところ、ヨガ教室は令和5年度から新メニューの別教室を開催することとなった。

地域の関係機関や団体である老人クラブ連合会、民生児童委員協議会、老人福祉懇談会などの会議や事業の場所として会議室の提供を行うなど地域の高齢者の「生きがいづくり」の拠点として、一定の役割を果たすことができた。

収支については、年々収入は減っているものの諸経費の削減により黒字となり、バランスを保つことができた。

今後、新型コロナウイルス拡大後実施していない近隣の保育園児や児童館の子ども達との世代間交流が実施できる状況になれば、従前以上のセンター利用者数が見込まれ、当センターの設置価値がより高まるものと思われる。